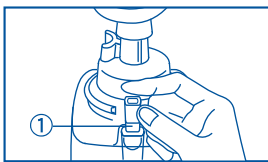


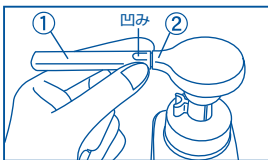
ステリクロン®スクラブフォーム4%

〈最初に使用するときに〉

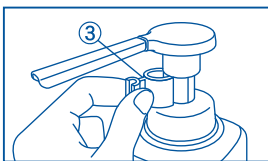
1. 容器に付属のロングノズル①を清潔な手で抜き取る。



2. 凹み部分を上にし、ポンプのノズル②の先端に奥まで差し込む。



3. ポンプのストッパー③を取り外し、泡が出るまで数回押す。



ポンプ：PP/PE ストッパー：PP
 ロングノズル：PP ボトル：PE
 ラベル：PS 外装フィルム：PE

目安

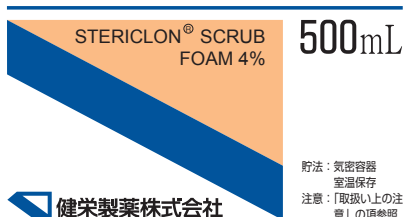
4

開封日

年 月 日

手指用殺菌消毒剤

ステリクロン®スクラブフォーム4%



健栄製薬株式会社
 大阪市中央区伏見町2丁目5番8号
 電話番号 06(6231)5626

貯法：気密容器
 室温保存
 注意：「取扱い上の注意」の項参照

ステリクロン®スクラブフォーム 4%

【禁忌（次の場合には使用しないこと）】
 クロルヘキシジン製剤に対し過敏症の既往歴のある者

ステリクロン®スクラブフォーム4%

※※2017年10月改訂（第3版）

※ 2016年 6月改訂

日本標準商品分類番号 872619

承認番号	22200AMX00939
薬価収載	薬価基準対象外
販売開始	2010年12月
再評価結果	1992年 6月

【組成・性状】

〈組成〉100 mL 中

クロルヘキシジングルコン酸塩 4g 含有（4 w/v%）。
 添加物としてラウリルジメチルアミノオキシド液、ヤシ油脂脂肪酸ジエタノールアミド、1,3-ブチレンジグリコール、グリコン酸、マクロゴール20000、エタノール、赤色102号を含有する。

【性状】

橙赤色澄明の粘性の液で、起泡ポンプを用いて吐出すとき、泡状となる。
 pH：5.3～6.3 比重 d₂₀：1.02～1.04

【効能・効果】

医療施設における医師、看護師等の医療従事者の手指消毒

【用法・用量】

1. 術前、術後の術者の手指消毒の場合：
 手指及び前腕部を水でぬらし、本剤約 5 mL を手掌にとり、1 分間洗浄後、流水で洗い流し、更に本剤約 5 mL で 2 分間洗浄をくりかえし、同様に洗い流す。

2. 1. 以外の医療従事者の手指消毒の場合：
 手指を水でぬらし、本剤約 2.5 mL を手掌にとり、1 分間洗浄後、流水で洗い流す。

*ポンプの操作として本剤約 1 mL 分の泡がでる。

※【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の場合には慎重に使用すること）
 薬物過敏体質の者

2. 重要な基本的注意

※(1) ショック、アナフィラキシー等の反応を予測するため、使用に際してはクロルヘキシジン製剤に対する過敏症の既往歴、薬物過敏体質の有無について十分な問診を行うこと。

（右側面へ続く）

〈調剤包装単位用バーコード〉



〈販売包装単位用バーコード〉



（左側面より続く）

- (2) 眼に入らないように注意すること。
- 眼に入った場合には直ちに水でよく洗い流すこと。
- (3) 本剤は希釈せず、原液のまま使用すること。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

※(1) 重大な副作用

ショック（頻度不明）、アナフィラキシー（頻度不明）：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので観察を十分に行い、血圧低下、蕁麻疹、呼吸困難等があらわれた場合は、直ちに使用を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

過敏症：発疹・発赤（頻度不明）等があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には使用を中止すること。

4. 適用上の注意

- (1) 投与経路：手指消毒以外の目的には使用しないこと。
- (2) 投与時：溶液の状態では長時間皮膚と接触させた場合に皮膚化学熱傷を起し得るため、事前に報告があるため、注意すること。

5. その他の注意

クロルヘキシジングルコン酸塩製剤の投与により、ショック症状を起こした患者のうち、数例については、血清中にクロルヘキシジンに特異的な IgE 抗体が検出されたとの報告がある。

【薬効薬理】

抗菌作用

- (1) クロルヘキシジングルコン酸塩は広範囲の細菌に作用し、グラム陽性菌には低濃度でも迅速な殺菌作用を示す。
- (2) グラム陰性菌には比較的低濃度で殺菌作用を示すが、グラム陽性菌に比べ感受性に幅がみられる。グラム陰性菌のうち、Alcaligenes、Pseudomonas、Achromobacter、Flavobacterium、Serratia 属等には、まれにクロルヘキシジングルコン酸塩に抵抗する菌株もある。
- (3) 芽胞形成菌の芽胞には効力を示さない。
- (4) 真菌類の多くに抗菌力を示すが、全般的に細菌類よりも抗菌力は弱い。
- (5) ウイルスに対する効力は確定していない。

【取扱い上の注意】

【注意】

本剤の付着した白布を直接、次亜塩素酸ナトリウム等の塩素系漂白剤で漂白すると、褐色のシミを生じることがあるので、漂白剤としては過炭酸ナトリウム等の酸素系漂白剤が適当である。

®登録商標